



尾道市文化財保護委員
尾道ユネスコ協会事務局長

写真家 村上宏治

【八朔巡礼物語り】

第6話

月刊柑橘誌『たちばな』その一

因島田熊に、そしてまた一人、
柑橘に全てをささげた情熱家が居た。

三一年間継続し、毎月
発行されたその冊子は、
総計三五〇冊。その発行者
の名前は岡野周蔵……

私がこの『たちばな』と言う冊子に出逢ったのは、八朔を調べに向いた国立国会図書館。田中長三郎博士の著書を調べていく中で出会った自費出版に近い『たちばな』という小冊子。その冊子に博士が頻りに寄稿文を寄せている事が分かり、更に多くの研究者が、一人人の出版物に寄稿している事にも驚いたのでした。

国立国会図書館のデータでは、発行期間三一年間と冊数三五〇の記録にあるものの、保管冊数は数十冊。著者である岡野周蔵氏は、明治四十四年岡野佐太郎の長男として、因島田熊に生まれ、昭和六年農林省園芸試験場を卒業後、田熊出荷組合の手伝いをしながら、柑橘農家として働き、夜は執筆活動に専念。昭和四十二年『たちばな』は三一年間の発行を持って廃刊。平成二十一年九

九歳にて死去されますが、生涯を柑橘生産に人生をかけた人と、故人を知る人は口々に教えてくれます。その情熱で発行された冊子は、柑橘農家の生産者の大きな情報源であり、生産意欲の向上に貢献した事でしょう。私が閲覧で、たまたま手にした第五巻八号の巻末に記していた一文に目が留まります。ペンを折る・岡野周蔵と大見出しの書き出しがありました。『たちばな』を創刊し、四年目の四五冊目を刊行した昭和十五年七月一日、岡野に召集令状が届き、八月一日福山歩兵連隊大四一隊機関銃中隊に入隊。

原文より現代文変換

【ペンを折る】 岡野周蔵

『たちばな』第五巻第八号 昭和十五年八月五日発行

昭和十一年十一月柑橘同志の研究、連携の機関誌として『たちばな』を創刊して、既に四年が経ち、出版を重ねること四五巻となりました。その間、印刷費の暴騰や、郵送料の値上げ、紙が著し

い不足など、時勢の中で、行動を妨げられるながらも、それらを一つ一つ克服し、ただひたすらに自らの使命の達成に邁進して来たのです。

耕作の間に出来たわずかな時間を惜しんで、編集のペンを握っていた私も、いよいよ召集令状を受け出征することが決まり、『たちばな』も中断せざるを得ない状態に置かれたのです。物資の節約、さらに深刻な紙不足に悩みつつある昨今、すっぱりと休刊するのが当然だ、と、この問題についてもたびたび熟考しました。しかしながら、当面している難問題を克服することに、猛烈に奮い立っている業界に対する使命はいよいよ重く、業者のみんなの期待は更に濃厚で、同志が著しく増えている現状に想いが及んだ時、休刊も発刊し続ける事も共にほつてはおけない……先輩方に相談し、慎重に協議を重ねた結果、本誌の使命を思って、新体制のもとで続刊する事になりました。

新しき編者によって内容は更に清く正しくハツラツとしたものに加え、堅実な経営によって一層

の飛躍発展を期待できるものと
確信しています。

心身共に戦火に鍛え直されて、
皆さんと共に再び日本柑橘界の
興隆に精進したい念願を持って
います。もとより生還すること
を期待できない我が身です。すべ
てを委員の皆さんの奮闘、同志の

皆さんのご協力に任せて、思い切っ
てペンを折り、農薬の噴霧口を
握っていた手に銃を取って、重き
任務を果たしたい覚悟です。
『たちばな』の大成すること、同
志のかたい連携をもって、柑橘の
日本での興隆の推進力でありま
すように、と祈りつつ……
それでは ごきげんよう



三一年間総冊数三五〇冊継続して発行された『たちばな』。現在、データベース化作業進行中

岡野周蔵氏から、 田中清兵衛氏へ……

また別頁には、両親とも健在、弟妹も多く、家の方は案ずることはなく、口気にかかるのは初産で臨月の大きなお腹をかかえた妻のことと、『たちばな』のことであつたと一文が残ります。

私は、この文章が心に焼き付きました。その死を覚悟した入隊。『たちばな』の廃刊もしくは休刊としての整理を始めつつ、今後を相談する中で、田熊の先輩諸氏が

ペンを折る

岡野周蔵

昭和十一年十一月柑橘同志の研究、提携の機関誌として『たちばな』を創刊してより既に四年を開し、巻を重ねること四十五、其の間、印刷費の暴騰、郵税の値上、紙價値等、凡ゆる時局下の制肘を克服しつつ、一意使命の達成に邁進して来たのであります。

耕餘の寸暇を割いて編輯のペンを握つてゐた私も、愈々大君に召されて出で立つ日が参り、々々ちばな中絶の止むなき状態に置かれたのであります。物資節約、殊に深刻なる紙不足に悩みつつある昨今、断然休刊すべきが至當なりとして、此の問題に就ても再三の考慮を致したのであります。

然し乍ら時銀克服に奮迅しつつある業界に負へる使命の愈々重く業者の期待更に濃く、同志著増の現勢に想到するとき、休刊、廢刊共に忍びざるところ、先輩諸彦に語り憶重協議を重ねたる結果、本誌の使命を念うて、新

體制の下に續刊する事となりました。

新しき編者によつて内容は更に清新發刺きを加うべく、堅實なる經營によつて一層の飛躍發展を期し得るものと確信するものであります。

心身共に戦火に鍛へ直されて、諸兄と共に再び日本柑橘界の興隆に精進したき念願なれども、素より生還を期し難き身、總てを委員諸氏の御奮闘と同志諸彦の御協力に任せて、敢然ペンを折り、噴霧口を握つた手に銃を握つて、重き任務を果たさき覚悟です。

々々ちばなの大成するところ、同志の固き運携たり、柑橘日本興隆の推進力たれと祈りつつ……
では御機嫌よう

からたち會の唄

一、駿河よいとこ蜜柑の國
故郷愛して希望
若い吾等がスクラム
富士もさやかに
二、進歩改良吾等のつとめ



『たちばな』第5巻第8号 昭和15年8月5日発行
岡野周蔵氏の記事(一部)と表紙

戦時下における物資不足の中でも発行された『たちばな』。この当時印刷の紙もインクも無いに等しい状況でも発行されていました。